



OG/OB と学生を結びながら、懐かしさと新しさ香る筑波の風を季節の便りとしてお届けしていきます。

INDEX



1. 平和を考える ドイツ国際平和村から / 金苗 慧真 (金 慧欣)
2. 「UNIDOL」の魅力 / 山田 久美子
3. 差別と闘う筑波大生 / 加藤 緑
4. ニュージーランドで学んだこと～南島編～ / 結城 希



1. 平和を考える

ドイツ国際平和村から



こんにちは！ドイツ留学中の金苗です。日本では暑すぎてモバイルバッテリーが爆発するという話を聞いて驚きました。ドイツは夏でも涼しく、8月の平均最高気温は約25度。寒い日にはジャケットを着る日もあるほどです。

さて、今回はドイツで平和活動に取り組んだ尾崎さん（筑波大OG）を紹介します。題名にもあるドイツ国際平和村（以下、平和村）との出会いは突然訪れました。6月7日、ドイツのデュッセルドルフでチラシ配りアルバイトをしていたところ、日本人だと気付いて日本語で話しかけてきたドイツ人がいました。その人に「こんな団体があって、そこでインターンシップをしたことがあるんだ」と紹介していただいたのです。当時はあまり興味がわきませんでした。1ヵ月後に「そういえば……」と思い出し取材をすることにしました。

まずは最近の平和村の活動について紹介します。治療が必要な子どもたち59人が2025年5月21日、アンゴラ首都ルアンダの空港でチャーター機に乗り込むのを待っていました。子どもたちは親元を離れて、ドイツ各地の協力病院での治療を受け、ドイツ西部オーバーハウゼンの平和村施設でリハビリをします。様々な国々の子どもたちとの共同生活を体験し、元気になって、家族の待つ母国へと旅立っていくでしょう。

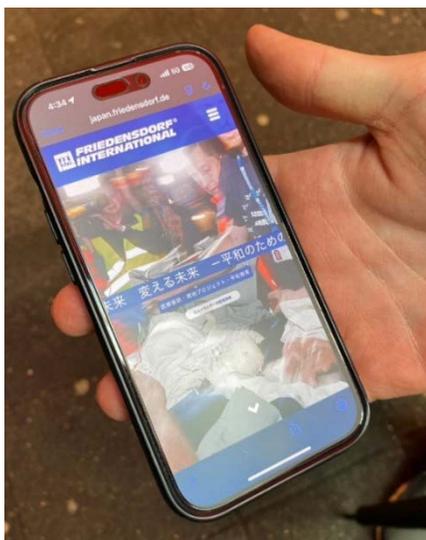


図1 平和村を紹介していただいた
(6月7日、デュッセルドルフで)



図2 この建物に子供たちと住み込みボランティアスタッフが住んでいます(8月17日、ドイツオーバーハウゼン市平和村前で)

平和村は、紛争や危機的状況にある子どもたちへの援助活動を行うNGOです。母国で治療を受けられない子どもたちにドイツでの治療を提供するとともに、医療インフラを回復する現地でのプロジェクトやドイツでの平和教育活動も行っています。筆者は8月17日(日)に訪れ、日本人スタッフの中岡麻記さんに案内していただきました。中岡さんは2000年9月～2001年4月まで平和村にボランティアとして活動していました。滞在中に職員として働かないかと打診があり、現在は常勤スタッフとして働いています。



図3 平和村に続く道には平和を願い「Rua Hiroshima (ヒロシマ通り)」と名付けられました。Rua はアンゴラの公用語の一つであるポルトガル語で道という意味が込められています。

■平和村に潜入

中岡さんから案内を受けて、平和村の敷地に入ると楽しそうに遊ぶ子どもたちの声が聞こえてきます。近づいていくと子どもたちが遊んでいる様子が見えました。さらに近くへ行くと、松葉づえをつく子、顔に火傷を負った子、手に包帯のある子がいます。直視できず、まごつく筆者にある女の子は「あなたの名前は？」とドイツ語で聞いてきました。少しの沈黙があった後に「エマです」と答えると、そのまま遊びに戻ってしまいます。そして、小学校低学年くらいの女の子たち数人がビニール袋と石を使って砲丸投げのような遊びを楽しそうにしていました。筆者は彼女くらいの年齢の時にそんなパワフルな遊びはしていませんでした。中岡さんは「危ないからやめて」といいますが、それでもなかなかやめません。

病気のある可哀想な子どもたち。そんな風に思っていた筆者は出鼻をくじかれました。平和村には本当に普通の子子どもたちが笑顔で過ごしていたのです。



図4 子どもたちの様子
(写真提供：ドイツ国際平和村)



図5 普段、この広場は子どもたちの遊び場です(写真提供:ドイツ国際平和村)

■子どもたちの母国アンゴラの現状

平和村はアフガニスタン・アンゴラを中心に活動を行っています。今回は、アンゴラに焦点を当てて子どもたちの背景の説明をします。アンゴラはポルトガルの植民地でしたが、1975年に独立。しかし、長期の内戦(1975～2002年)に突入してしまいます。2002年に和平が成立し、復興と再開発が進みますが、未だに貧富の差は大きいです。中岡さんは社会に「絶望感がある」と話します。

現在、平和村にいる子どもの多くが、直接的な戦争による怪我(銃に撃たれたり、爆発にまきこまれたり)ではなく、戦争の結果、医療インフラが破壊され、治療を受けられないことによって病気になっています。例えば、土を掘った穴の中で調理のために火を燃やしている最中に親が目を離した結果、赤ちゃんが火元の穴の中に落ちてしまい、火傷を負ってしまう場合などです。また、薬がないために、体内に細菌が存在したままになり、骨に細菌が繁殖する骨髄炎にかかる子どもも多いそうです。日本やドイツであれば現地で治療を受けることができますが、医療インフラが整っていない国では治療を受けることができません。

中岡さんは「『戦争がない＝平和』は必ずしも成り立たないことが身に染みてわかる」と話します。戦争が終わった後も爪痕は残り続け、「支援が行き届いているわけではない。平和村にいる子どもたちは運よく平和村に出会えたが、そうではない子どもがまだまだたくさんいるだろう」と歯がゆい思いをにじませました。「だが、絶望感のある社会に少しでも希望を作りたい。元気になった子どもが社会にとって希望になればよい」と思いを打ち明けました。

■平和村で活躍した筑波大生

日本では、女優・タレントである東ちづるさんの訪問がテレビ番組「ウルルン滞在記」で1999年以降7回放送されたことをきっかけに、平和村の認知度は高まりました。日本との関係は深く、年間運営費の約1千万ユーロ（約17億円、1€＝170円）のうち、10分の1から多い時で3分の1が日本からの支援だといいます。住み込みボランティアやインターン生も受け入れており、1995年以降、285人の日本人ボランティアを受け入れてきました。

2017年9月から2018年6月まで子どもたちの日常生活のお世話をしていた尾崎真佑子さん（2011年3月、看護学類卒）もボランティア経験者の一人で、現在は救急医療センターに勤務しています。平和村に参加したきっかけややりがいなどを聞きました。



図6 農園の人が動物を連れてきた時の尾崎さん
(写真提供：ドイツ国際平和村)

○平和村に行こうと思ったきっかけは？

大学を卒業後、救急病院のICU（集中治療室）で看護師として働いていたが、2015年ごろに起きた同時多発テロやイスラム過激派に殺害された後藤健二さんのニュースを耳にしました。社会の発展の中で犠牲になった人たちの憎悪の対象が「世界」に代わり、草の根事業や企業が築いてきた「日本人への無条件の信頼」が通用しなくなったように思いました。何か今できることをしないと後悔する気がしました。当時はちょうど看護師4年目で、もう1年したら知識や技術も認められるため、自信がつき体力もあったと思います。今なら自分の力をどこかに返せるかもしれないと思い、以前耳にしたことがあった平和村を思い出しました。

○印象に残っていることは？

子どもたちが障がいや背景に関係なく自然に補い合う姿です。小さな子が大きな子を助けたり、足の不自由な子が手の不自由な子を支えたりする様子を見て、「同情」と「協力」は全く違うのだと気づかされました。また、子どもたちは先入観を持たず、相手をそのまま受け入れる力を持っていました。彼らは、身体障がいを持った新しく出会う子について、自分との違いに疑問や関心を持たず、いつも相手の名前を聞き、一緒に遊べるかどうかに関心を持っていました。



図7 平和村にある家庭菜園の様子 (写真提供：ドイツ国際平和村)

○大変だったことは？

ドイツ人の同僚とは文化の壁があり、かみ合わないことがありました。また、子どもたちとの関わりで感じる難しさもありました。例えば、子どもたちの「銃ごっこ」。日本ではファンタジーですが、私が会った子たちのものは4～5歳がするには少しリアルに感じ、違和感がありました。平和を教えるなら「何かを言わない」という思いと、「身を守ること」と「人を傷つけるために攻撃すること」の違いの理解がまだ難しい子どもたちに、暴力を否定してしまったら、暴力が身近にあるコミュニティーで身を守れるのだろうかという葛藤がありました。結局「私は好きじゃないな」としか言えませんでした。

○筑波大での学びがどんなところに生きていますか？

多角的に物事をみようという考え方を学んだということに尽きます。例えば、1、2年生のころに自由に履修できる科目があり、視野が広がったと思います。また、同じ教育でも看護学類の視点から見た教育と教育学類の視点から見た教育は異なっています。当時のことは正直自分の一部になりすぎて、恥ずかしながら細かいことはあまり覚えていません。でも、それは何事にも応用できるベースをきちんと教えてもらったからなのだと思います。

■あとかき

平和村に行ったことで、戦争と平和を身近に感じるようになりました。ドイツでは、ウクライナから避難してきた寮で一緒に暮らすルームメイトや教授に出会いました。筑波大はウクライナ避難学生を受け入れており、ウクライナ人に会ったことはありましたが、面と向かって戦争の話をすることはできていませんでした。ドイツで出会ったウクライナ人の教授は「故郷からたくさんの方が避難し、なくなってしまったコミュニティーにもう戻ることはできない喪失感」を授業中に語りました。避難民はドイツに来ることで、戦争がない日常を得たと思います。しかし、中岡さんの『戦争がない＝平和』は必ずしも成り立たない」という言葉が後を引き続けました。戦争がなくても、苦しむ子どもたちを知って、「戦争が終わることはゴールでは

ないこと」を再認識させられる取材になりました。

また、戦争の話題になると気持ちは沈みますが、平和ではない世界を良くしようとする筑波大OGや平和村の姿に励まされました。この記事が少しでも平和について考えるきっかけになれば幸いです。平和村は寄付も募集しています。興味がある方は「ドイツ国際平和村 寄付」で調べてみてください！



図8 子どもたちが包帯替えや診察、リハビリの順番を待つ部屋
(写真撮影許可：ドイツ国際平和村)

参考文献

村に続く道は「ヒロシマ通り」広島市で「ドイツ国際平和村写真展」戦争などで傷ついた子どもたちを支援 平和への願いでつながる”広島とドイツ”

<https://newsdig.tbs.co.jp/articles/-/1446517?display=1&mwplay=1>

(最終閲覧日 2025年9月2日)

外務省 アンゴラ共和国

<https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/angola/data.html>

(最終閲覧日 2025年9月2日)

協力病院での治療と平和村でのリハビリ

<https://japan.friedensdorf.de/was-wir-tun/einzelfallhilfe/>

(最終閲覧日 2025年9月2日)

後藤さん殺害か、新たな動画公開 安倍首相「決して許さない」

<https://www.cnn.co.jp/world/35059781.html>

(最終閲覧日 2025年9月2日)

Friedensdorf International

<https://japan.friedensdorf.de/>

(最終閲覧日 2025年9月2日)

(情報学群 知識情報・図書館学類3年 金苗慧真(金慧欣))

2. 「UNIDOL」の魅力



こんにちは！情報学群知識情報・図書館学類 4 年の山田久美子です。今回は、私が所属しているサークルでの練習や出場している大会について書いていこうと思います！

私は「アイドル研究会 Bombs!」というサークルに所属しています。女性アイドルグループのコピーダンスを踊っているサークルです。AKB48、乃木坂 46 などのテレビに出ているアイドルから、iLIFE!、仮面女子などの地下アイドルと呼ばれるようなアイドルまで、様々なグループの曲を踊っています。X などで「筑波大学」「アイドル」で調べると私の所属しているサークルが出てくるようで、よくアイドルをしているサークルだと間違われます。しかし、アイドル「コピーダンス」サークルなのです。結構驚かれるのですが、歌は歌いません。ステージを見に行きたいけど素人の下手な歌を聴くのは苦痛だ、という皆さん、心配ありません。一切歌いません。ダミーマイクという声の入らないマイクを使い、口パクでまるで歌っているようにパフォーマンスを行います。「なんだよ口パクかよ！」と思うかもしれませんが、歌っていないのに歌っているように見せることは思っているよりずっと難しいです。口の動きを歌詞と合わせるだけでなく、姿勢、呼吸のタイミングなど、どのようにしたら本当に歌っているように見えるかを考えて動く必要があります。

私がアイドルコピーダンスに魅力を感じる一つの理由として女子大生対抗アイドルコピーダンスの全国大会である「UNIDOL」が開催されていることが挙げられます。毎年夏と冬の 2 回開催されています。ダンスだけでなく、衣装や魅力度など様々な観点で評価され、優勝が決まります。各チームが組むセットリストにはそれぞれの色が出ます。お客さんと一緒に盛り上がることを第一に置いているチームもあればダンスで圧倒することを重要視しているチームもあります。セットリストに入れる曲は配信済みの日本のアイドルの曲という縛りがあります。縛りがあるにもかかわらず チーム、ステージごとに全く違うものを見ることができるのは UNIDOL ならではかもしれません。

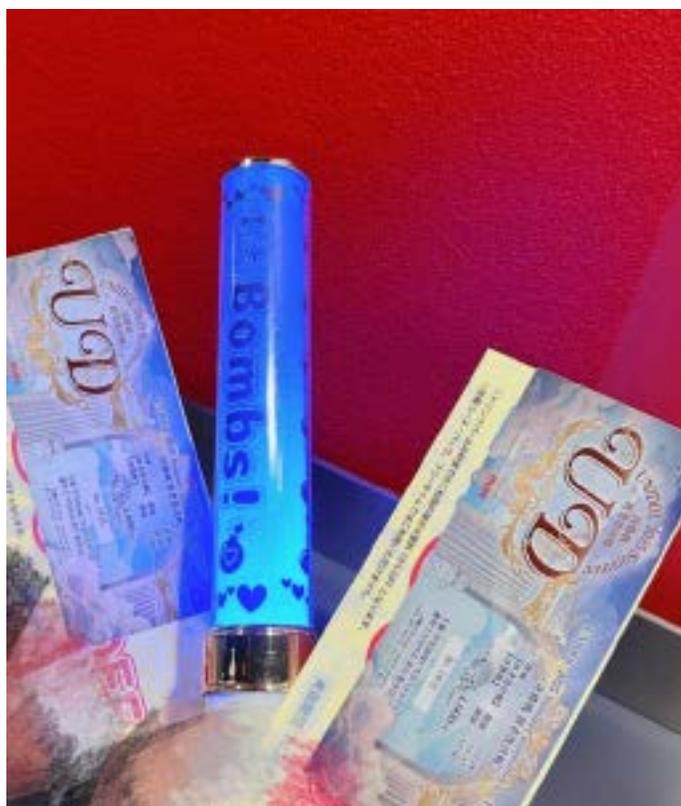


各チーム、本家アイドルの振り動画をYouTubeなどで見て振りをおこしています。そのため同じ曲を踊っていてもチームごと、それどころか代ごとに振りが異なることがあるのが一つだと思っています。他のチームのパフォーマンスを見ていて、同じ曲を踊っているはずなのに知らない振りをしていると思うことも度々あります。本当の振りは本家アイドル、本家の振付師しか知りません。自分達の振りが本当に正しいのかどうか私達にも私達を応援している人にも分からないところも面白さだと思います。分からないから振りを改変して、より映えると思う振りに変えることも可能ということです。でもそれを意図的にはしないことが本家をリスペクトしていることだと思います。リスペクトを持っていることに変わりはないのに解釈によって振りが異なることが面白いと思います。

大会で優勝するためにはパフォーマンス以外にも重要な要素があります。それは観客票です。チケットには1枚あたり1票分の投票券がついてきます。そして、チケットはそれぞれのチームが販売しています。少し考えてみて欲しいのですが、自分が何かの大会を見に行くとして、それに投票券がついてくる。チケットは出場者が販売しており、投票の結果が試合の結果に大きく影響する。誰から買っても大会を見に行く権利、投票の権利が手に入ることは変わりませんが、購入先には情が湧きませんか？大会当日、それぞれの出場者のパフォーマンスを完全に

フラットな目で見える事はできるでしょうか。そうです。チケット販売からもう勝負は始まっているのです。大会に出る側から見た面白さは、各チーム どの程度チケットを運営から購入するのか駆け引きが行われることです。チームとして、またチームの個人が抱えるチケットノルマと自チームが払える金額と他チームの購入状況の兼ね合い、空気の読み合いに UNIDOL ならではの戦いが表れていると思います。

応援する側から見た面白さとしては、どのチームからチケットを購入するか比較しながら考えることができることだと思います。各チーム、購入してもらうために魅力的な特典をつけています。例えば、今年の夏大会で私の所属しているサークルがつけた特典は、①推しメン夏のデート服チェキ、②オリジナルキンブレシート、③メッセージ付きデジタル集合ブロマイドの3つです。簡単に言うと、チェキ1枚、ペンライトの中に入れられるデコレーションシート、写真データです。どんな特典だったら応援してくれている人が欲しいと思うのか、チームを応援したいと思ってくれるかを考えて特典を設定しています。所属大学やチームの色、戦い方、チームに所属する個人、特典などチケット販売に繋がる要素は山ほどあります。優勝のために、様々な手を尽くしている様をみることができます。



もちろんパフォーマンスを疎かにしていいわけではなく、むしろパフォーマンスが最も重要な要素であるため大会前は長時間の練習を行っています。夏に開催される大会は練習期間が夏休み期間であり、授業がないため「1日練」という13時～22時までの練習を週に4回行っています。大会では複数の曲を披露するため、1曲のみを踊り続けるわけではないのですが、かなり疲れます。練習場所が確保できなかった場合、外で練習することもあります。練習していると夏の暑さを感じます。

突然ですが、夏にををする上で必要不可欠なものベスト3を発表します。暑い所に長時間いる際や運動をするときの持ち物の参考にしてください。

第3位。「ハンディファン。」運動すると体がほてって暑くてしょうがないです。風がない日の外は地獄です。でもハンディファンがあると、汗をかいた体や顔の温度が気化熱で下がって少しましになります。冷感のある汗拭きシートやミストと合わせると汗がどんどん引いていきます。

第2位。「塩分タブレット。」タブレットであることがミソです。飴タイプもあると思うのですが、練習の間のわずかな休憩時間では飴をなめ切ることはできません。その点タブレットはすぐ溶けて、簡単に噛めます。数ある塩分タブレットの中で私のお気に入りにはカバヤ食品の「塩分チャージタブレット」という商品です。あまり硬くなくて噛み砕きやすい、溶けやすいことが一番のお気に入りポイントです。そして味の種類も(塩分タブレット界の中では)かなり豊富でスポーツドリンク、梅、塩レモンの三つがあります。梅味が特においしいです。私は食べたことも見たこともないのですが沖縄限定でシークワサー味があるらしく、つくば駅近くのヨークベニマルで目撃情報をゲットしたのですが、私が見に行ったときにはもうありませんでした。かなしい。本当に食べたいので見かけたら教えてください。

第1位。「1.5Lの水筒。」大学生になってこんなに大きな水筒を毎日使うことになるとは思っていませんでした。つくばに引っ越すとき、実家から送る荷物に入れることなど考えもしなかったのですが500mlの水筒では到底足りず中学生の時に使っていたものを実家から送ってもらいました。週4回の練習。喉が渇くたびに自販機で水を買っていたら破産してしまいます。かといってペットボトルを家から持ってきてもすぐぬるくなってしまいます。その点水筒は冷たさがキープされます。最高です。もう水筒のない練習は考えられません。暑い時にキンキンに冷えた麦茶を飲むの、最高に気持ちいいです。

色々と書きましたが、練習しているとアイドルの曲を踊ることが好きだと感じます。練習でへとへとになって家へと自転車を漕いでいるときにふっと、「ダンス楽しい！」と思うこともあります。この号が掲載されるころにはもう夏大会は終わっていると思いますが、来年もきっと Bombs! は夏、優勝を目指して大会に出場すると思います。私は今年で4年生なのでもう出る事はないのですが、Bombs! のステージを見たいと思ってくれる方がもしいたらぜひチケットを買ってあげてください。多分泣いて喜びます。

参考文献：

気化熱について

<https://www.osaka-kyoiku.ac.jp/~masako/exp/netuworld/kikanetu/kikanetu.html>

(最終閲覧日 2025年9月1日)

カバヤ食品 塩分チャージタブレット

<https://www.kabaya.co.jp/catalog/charge-tablets/enbun/>

(最終閲覧日 2025年9月1日)

(情報学群 知識情報・図書館学類4年 山田久美子)

3. 差別と闘う筑波大生



夏の気温は年々高くなって溶けそうになりますが、皆様はいかがお過ごしでしょうか。

筆者は6月に留学先のイギリスから帰国した時、関東の蒸し暑さにショックを受けました。執筆している時点（8月上旬）はさすがに慣れましたが、マンチェスターの夏空が恋しいです。イギリスも地球温暖化の影響を受け、気温が年々高くなっています。しかしそれでも13℃～24℃で、稀に29℃まで上がることもあります。総じてとても過ごしやすいです。

さて、今回は社会貢献活動に取り組む筑波大生をご紹介します。今年6月、SNSを見ていたら、「差別に苦しむハンセン病コロニーに寄り添う一步を。希望を届けるワークキャンプ始動！」と題したクラウドファンディングが目飛び込みました。これは筑波大学の一般学生団体「インドワークキャンプ団体 namaste!」（以下「ナマステ」）のメンバーが行っているプロジェクトです。

団体名は過去に何度か耳にしたことがありましたが、具体的にどういうことをしているのかは気にしたことがありませんでした。しかし、マンチェスター大学留学中にたくさんのインド人学生と知り合い、帰国した今でも毎週のように連絡を取っている友人たちがいます。ゆえに、インドという未知の国に興味を持ち、いつか行ってみたいと思うようになりました。そんな矢先に見た前述のクラウドファンディング。活動に取り組んでいるメンバーに話を聞くことができました。

ナマステが行っている活動をざっくり説明しますと、インドに行ってハンセン病コロニー（ハンセン病患者やその家族が暮らす集落）の村人が受けている差別を解消するというものです。その延長線上にある今回のプロジェクトはナマステサークル長の勝原経太さん（社会学類3年）とメンバーの西澤諒さん（工学システム学類3年）が企画し、実現しました。

ハンセン病とは「らい菌」による感染症で、末梢神経に障害を引き起こします。治療は確立されていて、適切に処置すれば半年から1年で後遺症なく完治します。しかし放置すると症状が悪化し、患部が変形することもあります。恐ろしい感染症のように聞こえますが、実はらい菌は感染力が弱い病原体で、その細菌に接触しても95%以上の人は発症しません。細菌による感染症ですので、当然遺伝もしません。現在、インドをはじめ複数の国でハンセン病の新規患者が確認されています。

まだこの病気に対する理解がなかった時代、人々の偏見によってハンセン病患者は強制隔離され、社会から断絶されました。それは現在なお続いていて、彼らは教育や就労の機会を奪われ、困窮生活を余儀なくされています。

そんな状況を変え、人々の差別意識をなくそうと活動しているのがナマステで

す。インドのハンセン病コロニーに入り、村人たちと寝食を共にし、交流を深めながら彼らが抱えている問題を一緒に解決していきます。この活動を「ワークキャンプ」と呼びます。

ワークキャンプを行うことにより、コロニー周辺の住民たちに「ハンセン病は怖い感染症ではない」「コロニーは隔離しないといけない場所ではない」といった気づきを与えます。それと同時にコロニーに住んでいる村人たちの被差別意識を取り除くことが期待されます。

ナマステは2011年に創立され、これまで4つのコロニーでワークキャンプを実施してきました。活動するコロニーの選定はメンバーが実際に村人にインタビューするなどの事前調査によって行われます。一つのコロニーに約10年間と、長期間にわたってワークキャンプを行います。毎年長期休みに10人弱のメンバーがコロニーを訪れ、村人たちと一緒にサッカーを楽しんだり、子ども向けに理科教室を開いたり、インフラ整備を手伝ったりします。ワークキャンプは毎回約3週間に及びます。



村人たちと一緒にサッカーの試合を観戦（勝原さん提供）

話をクラウドファンディングに戻します。このプロジェクトではワークキャンプではなく、長期的なワークキャンプを行う場所をリサーチするために実施されました。調査地はインドではなくアフリカ東部のタンザニアです。

ハンセン病の新規患者数で見ると、インドがダントツで多いのですが、その他の国にも一定数いて、そのうちタンザニアはWHO（世界保健機関）にハンセン病の重点支援国に指定されています。

勝原さんと西澤さんの2人は8月13日に日本を出発し、タンザニアに向かいました。タンザニア人口の40%がキリスト教徒で、地域の教会がコロニーの支援を行っています。ただ支援内容はかなり地域差があり、食事、宿泊場所の提供、そして電気や水といったインフラの整備は場所によってあったりなかったりするといえます。8月28日までに3つのコロニーの支

援を行っています。ただ支援内容はかなり地域差があり、食事、宿泊場所の提供、そして電気や水といったインフラの整備は場所によってあったりなかったりするといえます。8月28日までに3つのコロニーを回り、村人たちに話を聞くことができたそうです。



タンザニアのハンセン病コロニーにある家屋 (勝原さん提供)

今回、新たにワークキャンプをするコロニーを探しているのは、これまで活動してきたインド東部のビシュナプールというコロニーでのキャンプを閉じることになったからです。そのコロニーには10年以上関わってきて、村人の生活状況がかなり改善されました。このコロニーに対するスティグマがなくなり、支援を続ける必要がなくなったとナマステメンバーが判断しました。スティグマとは特定の個人や集団の特徴（疾患や人種など）に対して周囲の否定的な認識や偏見から不当な扱いを受けることです。これまでビシュナプールコロニーに3回訪れた西澤さんは「寂しさはあるが、『差別を無くす』という目標が達成できたのは良かったです」と話します。

勝原さんと西澤さんはともに1年時にナマステに入りました。「ボランティア活動がしたい」「海外に行きたい」などの理由から入部を決めました。

コロニーに行く前は、「苦しい人たちを助けに行く」というイメージを持っていた勝原さん。だが実際に行ってみるとコロニーは明るい雰囲気にも包まれていて、異国から来る若者を温かく迎えてくれました。しかし、話しているうちに昔受けた差別やつらい思い出がポロっと出てくるところに胸を打たれたと言います。

コロニーでは日本語はおろか、英語も通じないため、通訳を介して会話します。しかしそれだと心を開いたコミュニケーションが難しいため、拙くても最初の挨拶だけでも現地語を使うようにしていると言います。また、村人の隣に座るなど、同じ目線で話すことを心がけ、でき

る限り相手との距離が縮まるようにしています。



村人たちに話を聞く西澤さん（手前左）と勝原さん（手前右）（勝原さん提供）

一連の活動を通じて、ハンセン病コロニー出身者が差別を受けたり、被差別意識に苦しめられたりすることなく周りの人と遜色ない生活を送ることができるのが勝原さんの目標です。しかし、ワークキャンプには限界があり、また長期間渡航できるのは学生の間だけです。そのため、ワークキャンプを超えたやり方を考えないといけないと胸の内を明かしました。

サークルとしてはワークキャンプを通じて村人たちと向き合い、彼らにとって意味のある支援をしていきたいと言います。また、国内での活動も強化することも検討しています。ハンセン病患者の差別はかつての日本でもあった問題ですが、今や知らない人がほとんどです。歴史を風化させないためにも、療養所に行ったり、勉強会を開催したりして、自分たちの活動を社会に発信していきたいと抱負を語りました。

勝原さん曰く、ハンセン病問題はもう終わったことではなく、現在進行形の問題だと自分の中で認識しているそうです。コロナ禍でも感染者が差別を受けるなど、ハンセン病問題と似たようなことが起きました。だからこそ、ハンセン病問題を今一度提起し、今後同じようなことが起きないようにしないと決心します。

勝原さんと西澤さんの話を聞き、わざわざ日本から遠く離れた場所まで行き、縁もゆかりもない人々の支援を行う筑波大生がいることを知って心が温まりました。将来は国際協力に従事したい者として、筆者は彼らの無私な精神に感銘を受けました。

世の中の分断や差別がなくなりますように――。

参考文献：

差別に苦しむハンセン病コロニーに寄り添う一歩を。希望を届けるワークキャンプ始動！

<https://for-good.net/project/1002112>

(最終閲覧日 2025 年 8 月 18 日)

インドワークキャンプ団体ナマステ！

[https:// ナマステ -india-workcamp.localinfo.jp/](https://ナマステ-india-workcamp.localinfo.jp/)

(最終閲覧日 2025 年 8 月 18 日)

わびねす WAPPINESS

<https://wappiness.org/>

(最終閲覧日 2025 年 8 月 18 日)

文部科学省 ハンセン病の向こう側

https://www.mext.go.jp/content/20210817-mxt_jidou01-1322245_003_2.pdf

(最終閲覧日 2025 年 8 月 18 日)

(生命環境学群 生物学類 4 年 加藤緑)

4. ニュージーランドで学んだこと～南島編～ / 結城 希



こんにちは。復学に向けた新居への引っ越し準備などがあり、バタバタしている結城です。実は今回の引っ越しから、初めて本格的な一人暮らしをすることになります。というのも、以前ペデジャーなるにも書いた通り、休学前はグローバルヴィレッジというシェアハウス型の学生寮に住んでいましたし、ニュージーランドの牧場で働いた際も住み込みでした。

自分だけの部屋を作っていけるのは楽しみなのですが、「ただいま」「おかえり」と言い合う相手の居ない生活は寂しい気がします。

■つくばへ移動のフェリー旅



ちなみに本稿もつくばへの移動中に書いています。具体的には北九州と大阪を結ぶ阪九フェリー「ひびき」の船内です。「ひびき」は2015年に導入された最新型のフェリーなだけあって、船内がとても綺麗で揺れもほとんどありません（悪天候だと別でしょうが）。特に直接外を一望できて、潮風を感じることでできる露天風呂には感動しました。車内販売がなくなってしまった新幹線や狭苦しい飛行機にはない空間、時間の余裕をフェリーでは味わう事ができますね。スタンダード洋室1名と125cc未満自動二輪が1台で10450円（ネット予約の2割引込み）と比較的安価であるのに、贅沢な移動を楽しめます。所要時間は12時間半で、当日17時半から翌朝6時の便を利用しました。

また、大浴場前の廊下には歴代就航した阪九フェリーたちが展示されていました。それを見ると、1968年就航の初代「フェリー阪九」が総トン数5201.84トン、旅客定員1195名、積載台数トラック80台、乗用車60台、航海速力16.80ノット、就航区間小倉～神戸なのに対して、現在就航中で22代目の「ひびき」は総トン数16040トン、旅客定員625名、積載台数トラック277台、乗用車188台、航海速力23.50ノット、就航区間新門司～泉大津と書かれています。興味深いことに、47年間で重さ・車の搭載量が約3倍になり、速力が6.7ノット速くなったのに旅客定員は約2分の1に減少しています。つまり大型化・高速化を成し遂げながら乗船する人の数は少なくなったのですね。旅客運送よりも貨物運送の方がメインになっていることが窺えて興味深かったです。

さて、それでは本編のニュージーランド南島でのサイクリングについて語っていきましょう。実は、ニュージーランドでも南島に渡るためにフェリーを利用したので、それについても書いていきます。

■南島自転車一周のルート

ニュージーランドの南島では、まず北端の港町ピクトンから最南端スロープポイントまでを、途中クライストチャーチで開かれたジャパンフェスタに寄りながら2/15～3/16の一か月で走りました。約1500kmです。クライストチャーチまでは基本海沿いで、その後テカポ湖やアルプス2オーシャントレイルが走りたくて一度内陸に入りました。

最南端からは一路北を目指し、道中色々な人に「南島、特にウェストコーストは良いぞ」と言われ続けて走りたくなくなった西海岸を走破。クイーンズタウンにも寄りました。

西海岸の海沿いの道は最北端から最南端を繋ぐTour Aotearoaというニュージーランドで最も有名なサイクリングコースの一部となっています。サイクリストが沢山で、大きなイベントに参加しているような気分になり面白かったです。その後、クライストチャーチから帰国するため、グレイマウス周辺から南アルプス山脈（南島を縦断する大山脈）を横断するアーサーズパスに挑戦しました。人生で一番の急坂でした。





全体的に南島は北島よりも田舎で、景色が壮大です。地形図を見ても、南島の平地面積は北島より少なく、大半が荒々しい山々に支配されていることが読み取れます。つまり坂は増えるし、補給場所は減るので難易度が上がります。しかし走って楽しいのは南島です。南東海岸のクリオベイ、西海岸の無補給地帯などほとんど人の手が入っていない荘厳な世界を感じられます。

■ウェリントンからピクトンまでのフェリー旅



↑ボートレースやセーリングが盛んなウェリントン 太陽に愛されている街だった

北島と南島の移動は Bluebridge 社のフェリーを使用しました。サイクリスト向けに割引をされていて、お得に乗れたのでうれしかったです。

フェリー旅で驚いたのが自転車旅行者の多さです。搭乗日フェリーの待合室に向かうと、既に私の他に自転車が何台も停められていました。自転車用に指定された小部屋の中がパンパンになるほどの混み具合です。

フェリーに乗り込み、自転車置き場に設置されていた紐で結びます。なんと全てセルフ方式で、倒れないよう何重にも手すりに自転車を縛り付けました。私は高校でヨット部に入ったためロープワークを知っていますが、不慣れた初心者だと困らないのかなと思いました。まあ聞けばやってくれるとは思いますが。

フェリーの展望デッキに上ると、ウェリントン市内が一望できます。とても美しい街です。数日滞在しただけですが、思いがけない出会いで同世代の友達ができ、一緒にサイクリングをしたり、トロンボーンを吹いたりした思い出の街となりました。少ししみりしながら、小さくなっていく街を見つめていました。



■新しい出会い

別れがあれば出会いもあるものです。船旅の中でイギリスから来たというサイクリストの老夫婦と仲良くなりました。定年後に世界中を自転車で旅しているみたいで、おすすめのサイクリングスポットを色々教えてくれました。

ルートが私とは違っていたため、下船後はもう会う事もないだろうとお互いの安全を祈って別れました。しかし！約1か月後、南島ほぼ最南端のキャンプ場にて偶然再会することになります。再会を喜び、南島の過酷なサイクリングを乗り越えたお互いを褒めたたえました。

いよいよ南島に到着する時には、壮大なフィヨルドがお出迎えしてくれました。山の中を進んでいるようで面白い景観です。そして、フィヨルドができるくらい南まで来た事を実感しました。



■ピクトンにて

2月15日に南島に到着した後は、3月1日にクライストチャーチで開かれるジャパンフェスタまで余裕があったこともあり、最初に泊まったバックパッカーホテルにて1週間住み込みで働きながらのんびり過ごしました。働くといっても、ベッドメイキングやシーツ替えといった短時間の仕事と引き換えに、給料の代わりである朝食と寝床を貰えるバックパッカーエクスチェンジだったので時間はたっぷりありました。

フォースクエアという、比較的田舎にも出店しているチェーンスーパーで買い物をしていると、無料の雑誌コーナーに地方紙が置かれていました。見てみると、何やら「Japan」の文字が書いてあります。



この地域の中高生が日本に交換留学へ行ったことについての記事で、人口が全然違う東京での生活が相当に刺激的であったと書かれていました。そして、派遣元の学校長が「南島北端にあるこの地域は地理的に孤立しているため、東京留学ができて幸運だ」と語っていて、世界の端に位置するニュージーランドと地理的・政治的にも周辺国に囲まれている日本の違いを実感できました。



■ ジャパンフェスタ！

ピクトンでゆっくりした後、東海岸を南下してなんとかクライストチャーチまで辿りつくことが出来ました。道中では見渡す限り広がるビーチでキャンプしたり、野生のオットセイを観察したりしましたが、今回は割愛させていただきます。



さて、いよいよジャパンフェスタ当日です。ジャパンフェスタは漫画やアニメといった日本のポップカルチャーを中心に、食や和太鼓、茶道など他の色々な文化も紹介するイベントで、日本の企業も協賛しています。



↑クライストチャーチ市内のパブリックアート、もしくは落書き。かなりクオリティの高いドラゴンボールの絵が書かれていた

イベントでは本当に沢山の展示があり、先ほど挙げたもの以外に、葛飾北斎の「富嶽百景」や鉄道むすめのパネル、初音ミクのイラスト展、新海誠監督のアニメ映画「言の葉の庭」の上映など盛りだくさんでした。体験型ではおせちのおもちゃを使った箸によるおせち入れのタイムアタック、足湯と富士山の大きな絵を使った銭湯体験、パチンコ台の試遊もありました(ニュージーランド参入を狙ってるのかな?)。また、現地のクリエイターによるイラストやグッズの物販も行われており、日本の同人誌即売会と少し似ている場所もありました。

ニュージーランド在住の日本人による茶道体験では抹茶とどら焼きを頂いたのですが、久しぶりに食べる本当の(ニュージーランドには偽物日本食が沢山なので…)日本の味はとても美味しかったです。

また、ピッコリーナ（右の写真の作品）などを書かれている漫画家の大槻一翔さんと、ピッコリーナが掲載されている漫画雑誌ハルタの編集長、塩出達也さんの講演もとても興味深かったです。ライブドローイングしながら目の前で漫画の描き方について説明してもらえたり、世界中で才能がある漫画家を探していきたいという編集長の野望を聞くことができたりしました。かなり熱心に質問している方もおり、ニュージーランド漫画ファンの熱意を感じられました。

日本の大学から研修の一環で来ている人たちや、クライストチャーチの大学に通う日系の方たちとも話せて、面白い繋がりを増やすことができました。



↓「新世紀エヴァンゲリオン」のヒロイン綾波とアスカのルービックキューブアート（！）。絵柄が旧作っぽい



↑去年は乙嫁語りの森薫さんが来られてたみたい。会いたかった！！



ちなみにジャパンフェスタが開催された Riccarton Park は競馬場みたいでした。



■日本へのサイクリング

ジャパンフェスタが終わった後、最南端へのサイクリングを再開し、2週間後の3月15日に最南端スロープポイントに到達することが出来ました。その後西海岸を北上し、なんとか3月31日にクライストチャーチに戻ってくる事が出来ました。

一周を達成した後はクライストチャーチを観光したり、前に借りていた寝袋をリトルトンまで返しに行ったりしました。そして、帰国前日に自転車を売りました。元々古いバイクなことに加えて私が酷使したため、部品だけとってフレーム自体は廃車にするとのことでした。自転車を売った後オークランドぶりの市内バスに乗っていると、「サイクリングが終わってしまったんだ」と少し寂しくなりました。



↑南島南東海岸 ダニーデン周辺のどこか

■参考文献（上から）

・旅行のとも ニューージーランド地図

(https://www.travel-zentech.jp/world/infomation/q048_map_newzealand.htm)

・shustrik New Zealand Elevation 3D Model

(<https://shustrik-maps.com/product/3d-map-new-zealand/>)

(社会・国際学群 国際総合学類3年 結城希)



編集後記

今年の夏は記録的な酷暑となりました。卒業生の皆様はこの夏をどのように乗り越えましたでしょうか。私は帰宅後にクーラーを18度設定にし、急速冷却するのが習慣になっていました。「アイドル研究会 Bombs!」で活動する学生は、暑さ対策のベスト3を紹介しています。冷却グッズの使用や水分補給だけで、9時間も屋外練習に打ち込むタフさに驚嘆します。一方で、夏休みを利用してハンセン病の差別解消活動に取り組む学生や、ドイツ国際平和村でボランティアをした卒業生も紹介されています。今年は戦後80年、昭和100年の節目でもあり「平和とは」考えさせられる時間にもなりました。ニュージーランドの紀行文では人との出会いが印象的で、SNSに頼りすぎない対面のコミュニケーションを楽しむ重要性にも気付かされます。今号も最後までお読みいただき、ありがとうございました。

社会・国際学群 社会学類4年 川上真生

X (旧Twitter)、Facebook で筑波大学の情報を発信しています

事業・リレーション推進室では、大学や在学生の「今」を伝えるため卒業生に向けて X (旧 Twitter)、Facebook でも情報を発信しています。

学生の様子、学内の景色や、大学の取り組みなどはもちろん、在学生・卒業生が交流できるような企画を増やしていきます。

卒業生が楽しんでいただけるお知らせやその他イベントについても告知していきますので、ぜひフォローをお願いいたします。発信してほしい情報がありましたらお知らせください。

 **筑波大学大学基金** <https://futureship.sec.tsukuba.ac.jp/>

Tsukuba Futureship (筑波大学) Facebook
<https://www.facebook.com/univ.tsukuba.futureship/>





TSUKUBA FUTURESHIP (筑波大学公式) X
<https://twitter.com/Futureship1>






編集・発行：「ペデジャーなる」編集ワーキンググループ

デザイン・配信作業：国立大学法人筑波大学事業・リレーション推進室

ご意見・問い合わせ先：国立大学法人筑波大学事業・リレーション推進室

〒 305-8577 茨城県つくば市天王台1丁目1-1

TEL 029-853-2030 FAX 029-853-6576



メールマガジンの一部または全部を無断転載することを禁止します。

©2025 University of Tsukuba.

 「ペデジャーなる」のバックナンバーはこちらから

➡筑波大学メールマガジン『ペデジャーなる』

<https://futureship.sec.tsukuba.ac.jp/alumni/pedeja/>

 配信先・ご住所などの変更は以下のフォームよりご登録をお願いいたします

➡登録フォーム <https://forms.office.com/r/0ndsbfM04q>